

令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

のうじくみあいほうじん やまなか し が け ん りゅうおうちょう
農事組合法人ジョイファーム山中（滋賀県竜王町）



【稲発酵粗飼料（稲 WCS）の収穫状況】



【女性部による自然薯の作付】



【収穫祭（ロールペールへの絵描き体験）】

【概 要】

1 むらづくりの動機・背景

本地区は、平地農業地域ではあるものの、ほ場条件が悪く、草刈りをはじめ農作業は重労働であり、少子高齢化や離農等により農業従事者が急激に減少。農業機械の更新も難しく、農業維持はもちろん、集落の神事や行事の継続の危機など、将来の見通しが暗くなった。

このため、集落住民が生きがいを持って健康で明るく暮らしていける地域づくりを目指し、平成 26 年に「農事組合法人ジョイファーム山中」（以下、ジョイファーム山中という。）を設立した。

2 むらづくりの内容

ジョイファーム山中は、農家等 45 戸を構成員に、総括、財務、営農、渉外等の理事 5 名、監事 2 名で組織され、山中自治会、町内畜産牧場等と連携し活動している。

「みんなの力と知恵で作ろう未来のジョイファーム山中」をスローガンに、

- （１）環境にこだわった水稻の作付や水田転作として WCS の積極的な展開。WCS の生産・販売、堆肥供給によるほ場への還元を通じた耕畜連携
 - （２）大型農機免許取得による若手の育成及び若手非農家による農作業機械運転や共同作業への参加を通じた後継者の育成、法人経営の継続
 - （３）女性部を中心とした特産品の栽培・開発や自治会主催による収穫際との連携
 - （４）活動成果や客先からの評価、今後の計画方針等の地区内への発信・共有
- などに取り組むとともに、集落内の耕作放棄地等を引き受け、その解消にも努めている。

これにより、周辺畜産農家の飼料需要のニーズに対応した耕畜連携・資源循環体系を確立し、組織の目的である組合員の農業生産性の向上、共同利益の増進を実現している。

さらに、自治会行事、地元神社の神事にも積極的に参加・貢献するなど、農業振興を超えた幅広い活動を進め、地域活性化に大きく寄与している。

令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

いちななさんはち さと かい きょうとうふうじたわらちよう
1738 やんたん里づくり会（京都府宇治田原町）



【オリジナルブランド茶「やんたん」】



【飲食部会のみなさんと茶汁のセット】



【茶つみ体験後の「茶畑カフェ」】

【概要】

1 むらづくりの動機・背景

宇治田原町湯屋谷は、緑茶の製法を完成させ全国に広めた永谷宗円翁を輩出した、日本緑茶発祥の地である。

老朽化が目立った宗円生家の改修を契機に、このままでは地域の賑わいが生まれないという危機感から、地域の魅力を再確認して誇りを感じる地域づくりを目指し、ワークショップを開いて議論を重ね、官民共同で「やんたん未来プラン」を策定。湯屋谷の将来ビジョンが地域住民に共有された。

その実行組織として、「1738 やんたん里づくり会」（以下、里づくり会という。）を平成30年5月に設立した。

2 むらづくりの内容

里づくり会は、町の観光拠点施設「宗円交遊庵やんたん」を活動拠点とし、会員は34名、飲食部会、体験部会、茶農家部会など6つの部会で構成されており、湯屋谷区、永谷宗円顕彰会、大学など他組織と幅広く連携している。

里づくり会は「やんたん未来プラン」の実現に向け、

- （1）集団茶園の再整備による生産性の向上と後継者の確保に伴う茶産地の継続・発展
 - （2）荒茶の直接仕入れによるオリジナル茶や放棄茶園の茶の実を利用した美容オイルなど、茶関連商品の開発、販売
 - （3）女性活躍の場である「あばんずキッチン」では、郷土料理の「茶汁」を現代風にアレンジして提供するなど、食文化の継承
 - （4）茶摘み体験や茶畑カフェ等の体験を通じたお茶の魅力の発信
- などに取り組んでいる。

これにより、お茶の歴史や伝統・文化の理解が地域内外に浸透し関係人口の増加につながっており、また、消費者のダイレクトな反応が得られることで営農意欲が向上するなど、地域活性化に大きく寄与している。

令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

近畿農政局長賞

おおやまちくのう すい かん かい ひょうごけんたんばささやまし
大山地区農・水・環の会（兵庫県丹波篠山市）



【自走式ラジコンによる草刈】



【女性グループがつくる「とふめし弁当」】



【小学生の大山スイカ栽培体験】

【概 要】

1 むらづくりの動機・背景

大山地区農・水・環の会（以下、大山地区の会という。）は、多面的機能活動組織として平成24年度に発足し、農業者と地区住民が一体となって、農業用排水路や農道の共同部分の保安全管理活動を10集落1組織で開始した。

各集落の課題は様々で、集落単独による課題解決は難しかったことから、組織の更なる連携強化を図るため令和2年度に広域協定を締結した。

また、地域固有の資源や食文化などの伝承、移住者の受け入れを活かそうと他団体と連携してむらづくりに取り組んでいる。

2 むらづくりの内容

大山地区の会は、自治会、農会、土地改良区、PTA、（一財）大山振興会から構成され、本部組織の広域運営委員会が集落独自の課題を共有し合意形成を図っており、

- （1）老朽化が進む水路や農道などの維持管理・更新等による農業用施設の長寿命化
- （2）高性能草刈り機の導入により急傾斜地等の草刈り作業の省力化。また、獣害防止柵の整備による野生動物の農地への進入防止
- （3）女性グループ「結良里（ゆらり）」による、郷土料理「とふめし」の伝承、地域の希少価値である伝統野菜の「天内芋（あもちいも）」、「大山スイカ」等の収穫体験や販売等を通じた地域住民、都市住民と交流促進
- （4）農地周辺に繁茂した竹林の整備と竹チップの堆肥利用。おかめ桜の植栽、里山整備による景観改善
- （5）地域と学校の協働による「地域参加型学校づくり」活動として、伝統野菜の食育、農業体験学習の実施などに取り組んでいる。

これにより、大山地区の魅力の再発見と次世代を担う人材づくりが進められ、会のモットーである「コミュニティを大切にしたい、持続可能な地域づくり」が実現されている。